

三重県企業国際展開推進協議会「第1回企画運営委員会」 会議概要

- I 日 時：平成26年6月10日（火） 10：00～12：00
- II 場 所：三重県合同ビル 4階 第3会議室
- III 出席者：佐久間委員長、天野委員、新井委員、井野委員、後藤委員、中川委員、西村委員、
藤本委員、山崎委員、山本委員、永田委員、廣田委員 (計12名)

IV 会議概要：

- 1 三重県企業国際展開推進協議会設置要綱の制定について
事務局から資料1・2により協議会概要及び設置要綱案について説明し、承認されました。
このことにより、本日（6月10日）をもって、本協議会が設立しました。
- 2 委員長の選任について
委員の互選により、佐久間委員が委員長に選任されました。
なお、設置要綱第5条第2項の規定により、委員長は本協議会の会長を兼任します。
- 3 協議会の活動方針について
事務局から資料3により活動方針案について説明し、承認されました。
- 4 会員募集の強化について
事務局から資料4により現在の入会会員を報告するとともに、委員に対し、国際展開に関心がある企業、将来的に国際展開を考えている企業といった予備軍の企業にも幅広く勧誘していただくよう依頼しました。

【委員意見】

- ・会員募集にあたっては、内容を簡潔に、協議会加入のメリットをしっかりと伝えて勧誘してほしい。

5 平成26年度事業について

(1) 海外ミッション団の派遣（北米、アセアン等）

事務局から資料5により今年度予定している海外ミッションについて説明しました。

【委員意見】

- ・海外では、人と人とのつながりをつくるのが特に重要になる。
- ・三重県の型をつくらないといけない。台湾の産業連携は三重県のモデルになり、他地域へも展開できる。掘り下げて集中的に取り組むことが大事だ。
- ・ミッションは行きっぱなしでは駄目で、その後の継続性のある取組が必要。

(2) 部会の設置

事務局から、会員のニーズや課題を聞き取り、ジェトロや海外ビジネスサポートデスクの情報を加味しながら部会の設置を検討していくことを説明しました。

【委員意見】

- ・農林水産や海外誘客の協議会とダブらない、あるいは共同でできるよう調整がいるのではないかと。
- ・企業によっていろいろなニーズが出てくるであろうから、効率的に活動できる部会にしたい。

(3) 三重県海外ビジネスサポートデスクからの報告

中国ビジネスサポートデスク（百五銀行）から資料6-1により、またアセアンビジネスサポートデスク（野村証券）から資料6-2により、業務概要や本協議会への提案について説明がありました。

6 みえ国際展開推進連合協議会（仮称）への参画について
事務局から資料7により説明し、承認されました。

7 情報共有

(1) 台湾、タイとの産業連携の取組

事務局から資料8により説明しました。

(2) 県内企業への海外展開にかかるヒアリング結果概要

事務局から資料9により説明しました。

【委員意見】

- ・ヒアリング対象がものづくり企業に偏っているが、サービス産業にも聴く必要があるのではないか。
- ・ヒアリングの際は、様々な角度から丁寧に聞き取ってもらいたい。

8 意見交換

- ・IT産業などのサービス産業の扱いをどうするのか。
- ・サービス産業は幅広く、ある程度落とし込んで議論していく必要がある。
- ・会員募集の際に説明できるよう、協議会のメリットを示してほしい。
- ・いきなり海外展開ではなく、国内でしっかりと実績を積み重ねてきて、国内の需要減少などの環境変化に伴って進出するケースが多い。国内でも海外でも同じように「売り方」に苦労する。中小企業でも良い商品をつくれれば、海外では大手企業がこちらから頼まずとも営業（PR）してくれる。
- ・海外では国内よりも高い値段で売れる商品がある。他と比べて突出して良いものである。三重県の産業の中で、そういうものは何か。協議会の中でそういったものを選別してもよいのではないか。
- ・現場主義の考えで、現地へ行ってみて気づくことが非常に多い。実際に足を運んで体で感じる事が大切だ。
- ・建設業がどこの戦略や方針にも出てこない。海外で浄化槽を導入しようとするれば、建設業が絡むことがあり、そんなところから関わりが出てくる。
- ・協議会の中身をいかにつくっていくか。企業からの相談やニーズは高度なものであり、この協議会の中でどう落とし込んでいくか。
- ・委員のメンバーは頻繁に変えず継続性を保ってほしい。
- ・会員が協議会参加のメリットを感じる事業が出来るように委員も事務局もしっかりと考えていきたい。